



川崎いのちの電話

ひとりで悩まずに **044-733-4343**

2018年度／2017年度事業案内

ひたすら掛け手の声を聴き続けて

川崎いのちの電話は、1986年12月1日開局以来、当時中高年層の自殺（自死）者が全国ワーストワンを脱却して住みやすい街・川崎を目指して、孤独、孤立の中で精神的に悩む匿名の掛け手からの電話相談を1年365日24時間続けてきました。

内外の政治、経済状況、そして自然環境も大きく変わりました。わけてもこの国が主要先進国の中でも凶抜けた超高齢化社会に突入し、3分の1以上が高齢人口国となり、一方で少子核家族化現象が進行し、親兄弟、家族はもとより友人、知人そして隣近所とのコミュニケーションがとれなくなっています。高齢者層のみならず、各階層のひとり悩む人の声は引きも切りません。その声を聴き、その心にひたすら寄り添い、ともに生きがいを探すべく、研修に研修を重ねて相談員は無償の奉仕に努力しております。

現在、種々の分野で「格差」という言葉が社会で問題になってます。富裕、貧困は経済用語かもしれませんが、その下に老人、子どもと続くのでしょうか。「いじめ」の元凶にもなっていないのでしょうか。自殺（自死）者は厚生労働省の発表では、この7年漸減となっておりますが、統計では計り知れないものがあると思います。行政が対処しきれない暗闇で悩み苦しむ声を聴き、その心に寄り添い、ひたすら声と声をつなぎ続けたいと努力して参ります。

2018年7月

理事長 金子圭賢

2018年度事業計画

2018年度は、相談者のための電話相談、相談員の増員・研修の充実、財政基盤の安定を、3つの大きな柱として活動を進める。

1. 相談内容の多様化、複雑化に合わせて、電話相談の質の向上を目指す

電話相談の質向上、つながりやすい電話などを目指す。貧困、高齢化、虐待、働き方など社会問題の研修を計画。

2. 相談員の増員と定着を図るため、養成研修、継続研修の在り方を検討する

相談員の減少は全国のいのちの電話に共通した課題。川崎では17年度から、相談員になるための入口である公開講座（基礎講義）の受講料を無料にしたが、18年度も無料を検討する。働きながら、他のボランティアをしながら電話相談員を目指す人が目立っており、養成研修の時期や内容の見直しを検討する。相談員の心のケアに力を入れる。

3. 財務基盤の安定を目的に、川崎いのちの電話「支援会」を発足させる

活動を行うための資金確保のため、「支援会」を発足し、広く市民や経済団体、企業に協力を求める。

そのほかの活動計画は次のとおり。

- 自死遺族ほっとライン …………… 川崎市からの委託事業である「自死遺族ほっとライン」（毎月第2、第4木曜日午後）の充実と担当相談員の増員
- インターネット相談 …………… 先進国の中で若者の自殺が多い日本で、その対応としてネット相談の回数を増やす
- 広報活動 …………… 広報誌を年3回（7月、11月、3月）発行
- 行政や学校、企業などへの講師派遣 …… 傾聴やゲートキーパーの理解のため、積極的に講師派遣の要請に応える
- こころの健康セミナー …………… 市民を対象とした川崎市との共催である「こころの健康セミナー」を10月に開催予定
- チャリティーイベント …………… 一般市民を対象に10月20日に「天満敦子ヴァイオリンコンサート」を実施、2019年3月10日落語会「柳家三三独演会」を予定
- 手作り品の販売 …………… 製作部は、チャリティーイベントや外部のバザーなどで手作り品を販売し、財政支援を行う

自死遺族ほっとライン **044-966-9951**
毎月第2・4木曜：午後0時～午後4時

自殺予防 いのちの電話 **0120-783-556**
毎月10日・24時間無料
(午前8:00～翌朝8:00)

社会福祉法人 川崎いのちの電話

2017年度事業報告

1. この1年の歩み

節目の30周年を経て、川崎いのちの電話は新たな時代に入った。17年度の活動目標は「相談しやすい川崎いのちの電話を追求していく」とした。活動の原点である「良き隣人として」を大事にしなが、社会の変化とともに変わる相談内容などに対応し、電話を受けることにした。定例の研修や研鑽を通して、相談員のレベルアップを図った。休眠していた財務委員会の活動を再開し、寄付増に向けた対策を検討、実行に移している。

2. 電話相談事業

①通常の相談電話とフリーダイヤル

2017年(1~12月)の相談電話件数は、1万4119件で、内容別の「その他」を除いた実相談電話件数は1万2827件だった。16年に比べて154件減少。1日当たり約35件。自殺傾向のある割合は10.1%(前年比1.4%増)。

②自死遺族ほっとライン

自死遺族ほっとライン(毎月第2・第4木曜日午後0時~4時、24回開催)の17年度の受信件数は16件で、前年度より2件増。「ここに話ができる電話があることが大切」という考えで取り組んでいる。18年2月に当事者を招いて研修会を開いた。

③相談員数

31期電話相談員として9名が17年9月に認定された。30期より4名増えた。実働相談員(2018年3月現在)は136名で、前年より3名減。全国でも同じ傾向が続いており、相談員増対策のひとつとして、研修の最初となる公開講座を16年度に続いて土曜日開催とし、受講料を17年度から無料にした結果、受講者は20人近く増えた。

3. 相談員の養成研修・継続研修

日常生活では誰にも話せないその気持ちを少しずつ表現できるよう温かく安らげる場を提供し、生きる活力をわずかでも取り戻してもらえるように耳を傾け、悩める人の今を支えることを目指し、相談員は日々研修を積んできた。

- 現任相談員に対する継続研修(対象16グループ、年12回)を実施、相談員全員を対象に年1回のスーパービジョンを実施。
- 中堅相談員のレベルアップ研修を8月、11月には全相談員を対象にしたリフレッシュ研修を実施。
- 相談員の全体会を3月に開催、研修を行った。この数年の統計データの分析を聞き、相談の質と対応力を高めることを話し合った。

4. 相談委員会

各継続グループ(16グループ)より選出された代表で構成し、毎月1回委員会を開催。全相談員の意見集約の場であり、相談員が生き生き活動できることが基本。相談室の資料として「タウンページ川崎版」を最新のものに更新し、「あなたに知ってほしい」(かながわ自殺対策会議発行)のパンフレットも設置した。

5. インターネット相談

2015年6月から川崎センターでも始めたインターネット相談は、17年(1~12月)は、116件で、新たなネット相談員増が課題。

6. 財務

休眠していた財務委員会の活動を再開、「川崎いのちの電話支援会」を発足させるため、4名の識者に発起人をお願いした。会員増のためライオンズクラブをはじめ経済界、市民などへの働きかけを行う。活動の運営資金を支える17年度の賛助会員、寄付協力は、個人106名、法人15社、13団体だった。

7. 広報・社会教育活動

- 広報誌「川崎いのちの電話」を7月、11月、3月と3回発行(延べ15,000部)した。特集は次のとおり。

90号:「地域の人たちの相談を受け25年」 専修大学心理教育相談室室長 長田洋和

91号:「みんなちがってみんないい~金子みすゞの詩に魅せられて~」 作曲家・指揮者 大西進

92号:「救われた『いのち』の灯を消さないために~救命救急センターから始まる自殺未遂者ケア~」

横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター助教 日野耕介

- 川崎市との共催で市民を対象にした「こころの健康セミナー」を10月に開催。参加者186人。作家の石井光太、ルポライターの杉山春、上智大グリーンケア研究所長の島蘭進が講演。その後、国立精神・神経医療研究センターの大塚俊弘、帝京大学附属溝口病院精神科教授の張賢徳が加わって話し合った。

- いのちの電話を知ってもらおうと、電話番号を記載したカードを作った。川崎市内の公立中学生全員に配ったほか、病院、警察、消防署、公的施設などに置いた。また、いのちの電話を知ってもらい、読んでひととき心が穏やかになるように願って小冊子「もしもしいのちの電話です」を作った。200部を病院や公共施設に置いた。この2つの製作費用は赤い羽根共同募金から助成を受けた。

8. チャリティー事業

広く市民に「電話相談活動」を理解してもらうために実施している。収益金は、電話相談事業の資金援助に充て、有効に活用している。4月に寄席(柳家喬太郎ら出演)、10月にコンサート(はせがわきよしら出演)、18年3月に寄席(柳家三三ら出演)を行った。

9. 手作り品の販売

製作部は本部と新ゆりで手作り品を作り、チャリティー事業や教会バザーなどで販売した。

10. 理事会・評議員会・各種会議・委員会活動

新たな法令のもと、理事会は5月、10月、3月の3回、評議員会は5月、3月の2回それぞれ開催した。運営会議、相談員委員会、研修担当者会、インターネット相談委員会、事業推進委員会の企画部会、広報部会、製作部会の各会議を開き、活動の方針などを確認した。

11. 対外活動

<外部の会議>

- 神奈川県犯罪被害者支援者会議(6月)、川崎市青少年育成連絡会議(同)、傾聴ボランティア養成講座(10月)、川崎市地域自殺総合対策推進連絡会議(7月、1月)

- ライオンズクラブ、ロータリークラブの例会、周年行事に参加

<講師派遣>

- 秦野市立南中学校福祉講演会(6月)、相模原市精神保健福祉センター ゲートキーパー講演会(9月)、川崎市精神保健福祉家族会連合会のNPO法人あやめ会の相談員研修(10月、1月)

1. 2017 年度相談電話件数

2017年(1～12月)の相談電話件数は、1万4119件で、内容別の「その他」を除いた実相談電話件数は1万2827件だった。16年に比べて154件減少。1日当たり約35件。自殺傾向のある割合は10.1%(前年比1.4%減)、男性10%、女性10.2%。12年から10%台が続いている。

内容別では、「人生」が4178件(全体の33%)で最も多く、「保健・医療」2932件(23%)、「家族」1894件(15%)、「対人」1551件(12%)、「男女」906件(7%)、「夫婦」739件(6%)、「経済・教育・情報の他3項目」323件(3%)、「性」304件(3%)の順になっている。「人生」が1位を続け、「保健・医療」は13年から20%台が続いている。男女別では、男性44%、女性56%。

年代別では、50代が24%、40代が22%。この2つの世代が全体の半数近くを占め、30代15%、60代15%、20代7%、70代以上3%、10代3%の順。世代不明が11%。

毎月10日に実施している「フリーダイヤル自殺予防いのちの電話」の相談電話件数は、660件、自殺傾向の電話は20.2%と、通常電話より2倍も高い。

2. 2008 年～2017 年 (10 年間) の相談数の推移

最近10年間の推移を表とグラフで示した。

1 男女別実相談数

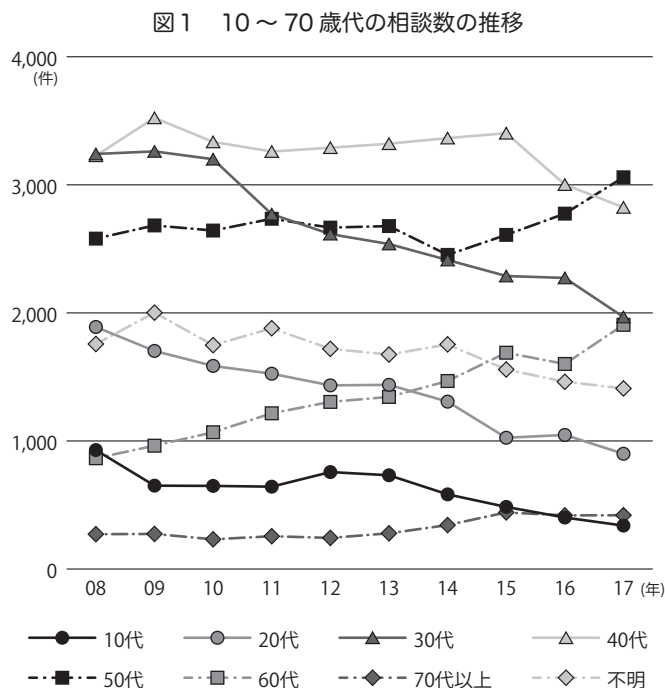
(単位: 件)

区分	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
男性	6,571	6,866	6,299	6,142	6,036	6,008	6,228	6,067	6,086	5,677
女性	8,190	8,194	8,162	8,144	7,993	7,997	7,458	7,432	6,895	7,150
計	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,005	13,686	13,499	12,981	12,827

2 年代別実相談数

(単位: 件)

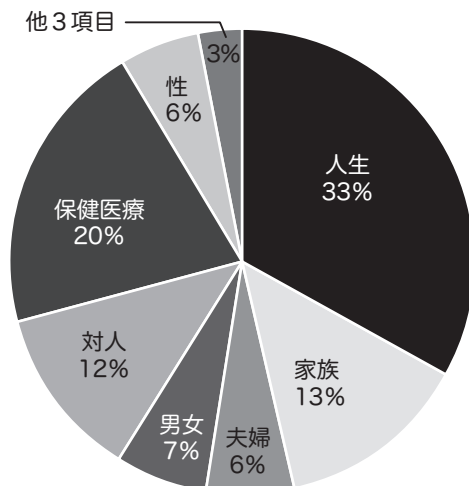
区分	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
10代	929	651	649	643	757	732	583	485	402	339
20代	1,890	1,703	1,586	1,525	1,434	1,438	1,307	1,025	1,047	900
30代	3,241	3,261	3,200	2,771	2,615	2,538	2,413	2,288	2,273	1,968
40代	3,227	3,523	3,335	3,260	3,290	3,321	3,365	3,403	3,002	2,824
50代	2,580	2,683	2,643	2,735	2,666	2,678	2,453	2,609	2,775	3,059
60代	865	963	1,068	1,216	1,305	1,344	1,468	1,689	1,601	1,907
70代以上	272	274	232	256	243	279	343	442	419	420
不明	1,757	2,002	1,748	1,880	1,719	1,675	1,754	1,558	1,462	1,410
計	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,005	13,686	13,499	12,981	12,827



3 内容別実相談数

区分	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	計
人生	4,910	5,210	5,085	5,075	4,659	4,446	4,393	4,101	4,055	4,178	46,112
家族	1,852	1,691	1,808	1,817	2,018	2,070	2,039	1,938	1,786	1,894	18,913
夫婦	926	1,026	910	925	786	863	711	692	747	739	8,325
男女	735	808	772	738	1,025	1,087	1,006	898	1,061	906	9,036
対人	1,947	1,849	1,763	1,482	1,555	1,577	1,596	1,802	1,688	1,551	16,810
保健医療	2,456	2,787	2,473	2,502	2,591	3,084	3,230	3,299	2,992	2,932	28,346
性	1,425	1,248	1,210	1,218	905	404	360	428	333	304	7,835
他3項目	510	441	440	529	490	478	351	341	319	323	4,222
計	14,761	15,060	14,461	14,286	14,029	14,009	13,686	13,499	12,981	12,827	139,599

図2 10年間の内容割合

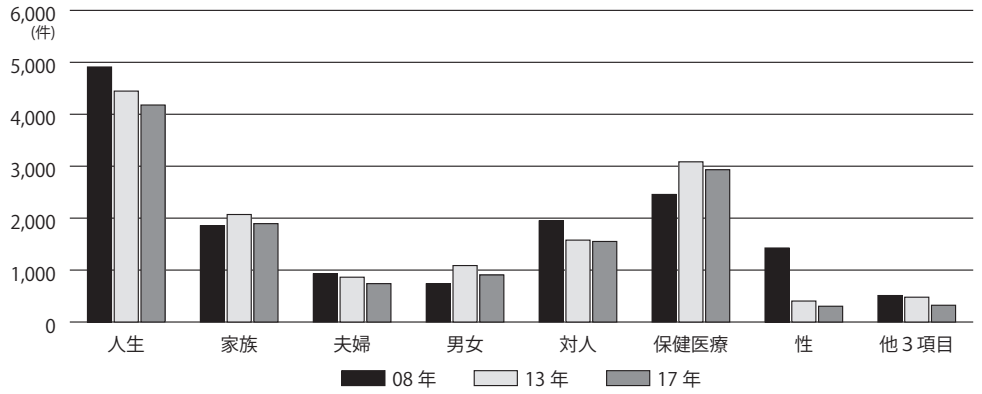


内容別実相談数の年別比較

(単位：件)

	08年	13年	17年
人生	4,910	4,446	4,178
家族	1,852	2,070	1,894
夫婦	926	863	739
男女	735	1,087	906
対人	1,947	1,577	1,551
保健医療	2,456	3,084	2,932
性	1,425	404	304
他3項目	510	478	323
計	14,761	14,009	12,827

図3 内容別実相談数の年別比較

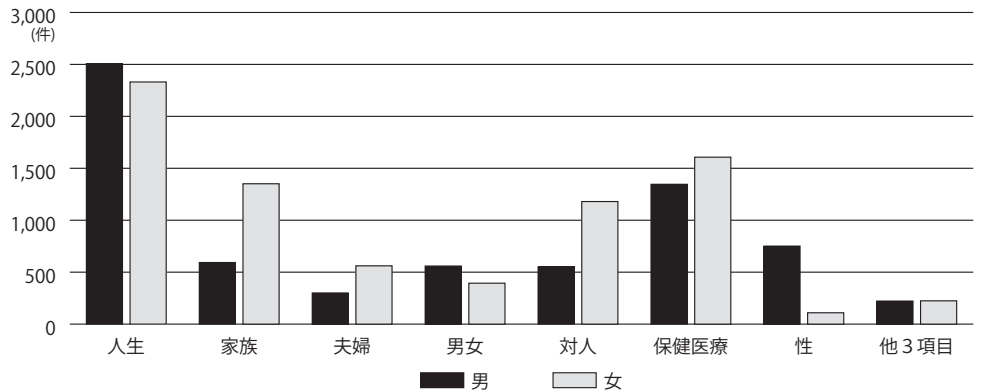


2008～2017年男女別平均

(単位：件)

	男	女
人生	2,508	2,331
家族	593	1,351
夫婦	300	561
男女	559	394
対人	551	1,180
保健医療	1,346	1,607
性	751	109
他3項目	222	224

図4 男女の内容別実相談数（2008～2017年平均）



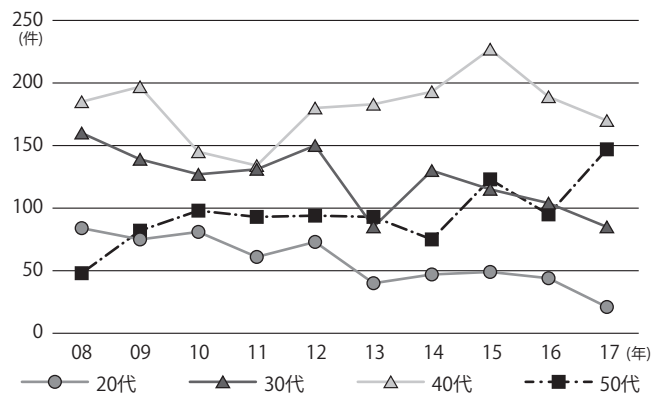
4 自殺志向相談状況

男女別自殺志向相談割合の推移

(対実相談数%)

	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
男性	9.1	9.0	9.6	8.7	10.2	12.2	9.3	11.1	9.7	10.0
女性	10.8	11.0	10.1	10.8	12.2	8.2	13.4	12.4	13.2	10.2
男女計	10.1	10.1	9.9	9.9	11.3	10.9	10.9	11.8	11.5	10.1

図5 男性20歳～50歳代自殺志向相談の推移

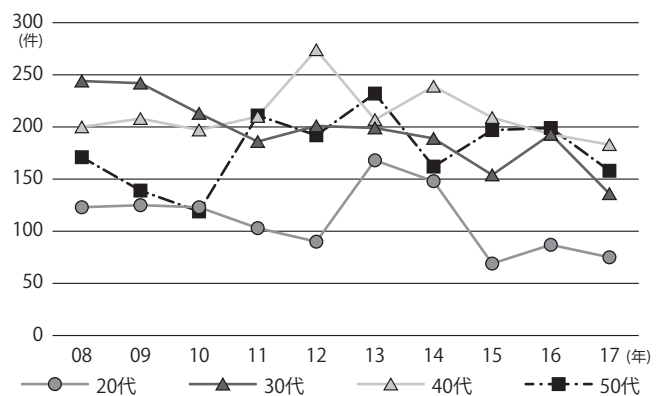


自殺志向男性年代別の推移

(単位：件)

	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
20代	84	75	81	61	73	40	47	49	44	21
30代	160	139	127	131	150	85	130	115	104	85
40代	185	197	145	134	180	183	193	227	189	170
50代	48	82	98	93	94	93	75	123	95	147

図6 女性20歳～50歳代自殺志向の推移



自殺志向女性年代別の推移

(単位：件)

	08年	09年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
20代	123	125	123	103	90	168	148	69	87	75
30代	244	242	213	186	201	199	189	154	193	136
40代	200	208	197	210	274	207	239	209	193	183
50代	171	139	119	211	192	232	162	197	199	158

2017年度決算

平成29年度 社会福祉事業 事業活動計算書 (自)平成29年4月1日～(至)平成30年3月31日 (単位:円)

社会福祉法人 川崎いのちの電話	当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
サービス活動増減の部			
収益			
相談事業収益	8,240,800	8,525,100	△284,300
経常経費寄附金収益	4,462,654	5,295,913	△833,259
その他収益	34,174	888,500	△854,326
サービス活動収益計(1)	13,737,628	14,709,513	△971,885
費用			
人件費	5,408,309	5,813,138	△404,829
事業費	4,639,543	5,462,127	△822,584
事務費	2,911,548	3,171,096	△259,548
減価償却費	2,197,045	2,225,395	△28,350
国庫補助金等特別積立金取崩額	704,667	946,667	△242,000
サービス活動費用計(2)	14,451,778	15,725,089	△1,273,311
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	△714,150	△1,015,576	△301,426
サービス活動外増減の部			
収益			
受取利息配当金収益	14,192	12,642	△1,550
サービス活動外収益計(4)	14,192	12,642	△1,550
費用			
サービス活動外費用計(5)	0	0	0
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	14,192	12,642	△1,550
経常増減差額(7)=(3)+(6)	△699,958	△1,002,934	△302,976
特別増減の部			
収益			
施設整備等補助金収益	0	200,000	△200,000
特別収益計(8)	0	200,000	△200,000
費用			
固定資産売却損・処分損	4,726	114,844	△110,118
国庫補助金等特別積立金取崩額	22,153	85,417	△63,262
国庫補助金等特別積立金積立額	0	200,000	△200,000
特別費用計(9)	17,430	229,427	△246,857
特別増減差額(10)=(8)-(9)	17,430	△229,427	△246,857
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△682,528	△1,032,361	△349,833
繰越活動増減差額の部			
前期繰越活動増減差額(12)	14,835,368	13,803,007	△1,032,361
当期繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	15,517,896	14,835,368	△682,528
基本金取崩額(14)	0	0	0
その他の積立金取崩額(15)	0	0	0
その他の積立金積立額(16)	0	0	0
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	15,517,896	14,835,368	△682,528

平成29年度 社会福祉事業 貸借対照表 (単位:円)

社会福祉法人 川崎いのちの電話	当年度末	前年度末	増減
資産の部			
流動資産	6,300,436	6,684,396	△383,960
現金預金	6,300,436	6,474,186	△826,250
小引当金	48,943	13,837	△35,106
貯留金	3,093,882	4,066,574	△972,692
貯蓄金	2,469,055	1,642,537	△826,518
郵便振替口座	479,456	951,238	△471,782
未収金	0	10,210	△10,210
固定資産	122,717,425	123,759,195	△1,041,770
基本財産	100,000,000	100,000,000	0
土地	22,000,000	22,000,000	0
基本財産特定預金	20,000,000	20,000,000	0
建物	58,000,000	58,000,000	0
減価償却累計額	△6,090,000	△4,930,000	△1,160,000
減価償却積立預金	6,090,000	4,930,000	△1,160,000
その他の固定資産	22,717,425	23,759,195	△1,041,770
構築物	6,822,500	6,822,500	0
器具及び備品	3,752,078	3,893,828	△141,750
ソフトウェア	2,278,500	2,278,500	0
減価償却累計額	△5,136,078	△4,236,058	△900,020
その他の積立資産	15,000,425	15,000,425	0
修繕積立資産	10,000,000	10,000,000	0
新事業準備積立資産	2,000,425	2,000,425	0
施設整備等積立資産	3,000,000	3,000,000	0
資産の部合計	129,017,861	130,443,591	△1,425,730
負債の部			
流動負債	0	16,380	△16,380
受入金	0	16,380	△16,380
負債の部合計	0	16,380	△16,380
純資産の部			
基本金	100,000,000	100,000,000	0
基本財産	100,000,000	100,000,000	0
国庫補助金等特別積立金	29,535,332	30,262,154	△726,822
国庫補助金等特別積立金	29,535,332	30,262,154	△726,822
その他の積立金	15,000,425	15,000,425	0
その他の積立金	15,000,425	15,000,425	0
次期繰越活動増減差額	△682,528	△1,032,361	△349,833
(うち当期活動増減差額)	△682,528	△1,032,361	△349,833
純資産の部合計	129,017,861	130,427,211	△1,409,350
負債及び純資産の部合計	129,017,861	130,443,591	△1,425,730
減価償却の累計額	6,090,000		
構築物	716,383		
器具及び備品	2,558,940	会社	11,226,078
ソフトウェア	1,800,775		

2018年度予算

事業活動による収支 単位:円

収入の部		支出の部	
相談事業収入	8,419,600	事業費支出	5,086,000
育成事業収入	1,710,000	委員会費	570,000
受託事業収入	1,320,000	広報費	700,000
その他事業収入	5,389,600	研修研究費	1,300,000
川崎市補助金	5,189,600	教育指導費	1,400,000
共同募金分配金	200,000	人件費支出	6,450,000
経常経費寄付金収入	7,300,000	事務費支出	3,390,200
経常経費寄付金収入	4,400,000	事業活動支出計	14,926,200
一般寄付金	2,100,000		
チャリティ寄付金	1,500,000		
制作部寄付金	800,000		
会員会費収入	2,900,000		
賛助会費	2,500,000		
維持会員会費	400,000		
その他の収入	150,000		
事業活動収入計	15,886,200	事業活動資金収支差額	960,000

平成29年度 監査報告書

社会福祉法人 川崎いのちの電話 理事会 御中

私たち監事は、社会福祉法人「川崎いのちの電話」の定款第11条第一項の規定に基づき、本法人会計業務の現況を監査するため、平成30年5月2日、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの、平成29年度の会計監査を行いました。その結果につき下記のとおり報告します。

1. 監査方法の概要

平成29年度の資金収支計算書(第1号1様式、第1号4様式)、事業活動計算書(第2号1様式、第2号4様式)、並びに貸借対照表(第3号1様式、第3号4様式)、総勘定元帳、伝票、証憑書類、その他これに関する帳簿等の監査を行い、正確性を検討した。

2. 監査意見

本法人の財務諸表は、平成29年度における収支並びに年度末における財産の状況を適正に表示しており、業務は規約に準拠し、適正に示しているものと認めます。

平成30年 5月 2日

監事 増山 雅久 印

監事 関口 賢次 印

<役員名>

評議員	市川 功一	近藤 八千代	今野 夕ネ子	千田 智子	田出 亨
	松原 成文	百元 信一	鏑木 昌代	北條 秀衛	
理事長	金子 圭賢				
理事	井田 光政	鈴木 清	張 賢徳	安達 成功	田村 周子
	有田 茂				
監事	関口 賢次	増山 雅久	顧問	阿部 孝夫	安藤 義雄

寄付感謝

2017年度は次の方々、法人・団体の皆さんから温かい寄付をいただきました。感謝してご報告します。

《個人》

浅田 美子	齋藤 正	原 勝代	安達 廣二	酒井 靖恵	春増さち子	粟井 清	笹川 泰弘
平井 智子	石川 公一	笹山 久子	石橋 慶子	佐藤 史朗	深瀬 茂子	石原 淳子	澤 洋子
藤嶋とみ子	市川 功一	柴田 武子	藤野 芳郎	伊藤 奎助	柴田 頼子	布施 喜作	稲川 菊代
澁谷 初美	北條 秀衛	漆原 敦子	島 典子	保坂 博子	大島 良	島崎 祥子	松尾 信子
小笠原光一	白石 弘巳	松岡 信子	岡田 祐子	秦 ひろみ	松岡 光子	岡田 良子	仁上喜久夫
松島 太郎	岡本由利子	末松 渉	松本 英彦	小川 祐一	西山 和美	菅沼 雪絵	村上カズコ
奥 秀子	助川 公子	目代 健次	長掛 栄一	鈴木 恵子	靱山 勝雄	尾根 恒	鈴木 早苗
森 清	小山 明子	瀬森 尚羊	森 多美子	梶川 明美	矢田部光江	嘉瀬 敏	高村 真
山鹿 文子	門脇美智子	竹内 光代	山本 剛	金子 颯	武田 信平	山本 苑子	金子 圭賢
田玉由希子	吉川真希子	鏡木 昌代	常松 恭子	吉澤 孝彦	河合 徹子	露木 知美	渡邊 新治
木澤 静雄	戸張 道也	渡邊 実和	北村 信子	長塚いつ子	渡部佳代子	倉片 孝行	中堀仁四郎
小泉 正博	中村 幸代	越水 正明	中村 文子	小関 裕司	西田喜久子	小林 英機	林 茂
小林美年子	野島名菜子	近藤 和子	馬場 邦枝	近藤八千代	濱井 慶子	齊木 貴	西村治人・俊子

匿名希望3名

《法人・団体》

(株)飛鳥典禮	おくせ医院	神奈川県精神保健福祉協会
(株)アドバンスホーム	(株)櫻井興業	(株)三泉
(株)日本ビューテック	(株)美幸軒	(株)由貴工務店
久津間製粉(株)	ジェクト(株)	藤屋畜産(有)
村井不動産(株)	(有)アイディーエー	(有)湘南安全硝子
(有)福一	(有)モクダイ	(有)渡辺設計
川崎北ロータリークラブ	川崎富士見ライオンズクラブ	国際ソロプチミスト川崎
捜真女学校中学部・高等学部	カリタス学園同窓会	大本山川崎大師平間寺
西明寺	ケベックカリタス修道女会	カトリック鷺沼教会
カトリック百合ヶ丘教会	日本キリスト改革派 東京恩寵教会	日本基督教団川崎教会教会学校
日本キリスト教団溝ノ口教会	日本キリスト教団向河原教会	日本キリスト教団元住吉教会
横浜指路教会	共同購入	募金箱
書道部	新ゆり製作部	センター製作部
チャリティー収益金		

— 財政支援にご協力を —

24時間365日眠らぬ電話相談活動は、資金ボランティアからの会費、寄付により支えられています。相談員の養成、研修のほか、建物の維持管理、人件費、事務費、広報活動に年間約2000万円の資金が必要です。自前での資金確保(チャリティー事業による収益など)に努めているほか、川崎市からの補助金、多くの個人、法人・団体から寄付をいただいておりますが、ここ数年、寄付の総額が減っています。どうぞ皆さまのご理解とご支援を心からお願いします。

なお、川崎いのちの電話への賛助会費・寄付は寄付金税額控除など税制上の対象になります。

◇賛助会員 定期的に会費で寄付をいただける個人、法人・団体

- (1)個人会員 年額 5万円 3万円 1万円 5千円 3千円
 (2)法人・団体会員 年額 10万円 5万円 3万円 1万円

◇寄付 個人、法人・団体ともに金額、回数を定めない場合。相続や遺贈による寄付も控除対象となります。

◇振込先

- (1)ゆうちょ銀行からの振り込み(払込取扱票にて) 口座番号:00240-2-36798
 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話
- (2)他銀行から振り込み
 銀行名:ゆうちょ銀行 店名:〇二九(ゼロニキュウ店) 預金科目:当座
 口座番号:0036798 加入者名:社会福祉法人 川崎いのちの電話
 お問い合わせ:川崎いのちの電話事務局(044-722-7121)

「2018年度/2017年度事業案内」を発行しました。17年度事業報告、18年度事業計画、電話相談の統計・分析を中心に紹介します。詳しい事業報告や会計報告などを紹介する事業案内は、川崎いのちの電話のホームページに掲載します。
<http://kawasaki-inochinodenwa.jp>